

<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>第1号(4月予報)</h2>	<p>令和2年3月26日</p> <p>岐阜県病害虫防除所</p>
-------------------------------------	-----------------------------------

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
麦	赤かび病	栽培地域全域	早	やや多
なし	赤星病	栽培地域全域	早	やや多
	黒星病	栽培地域全域	早	平年並
イチゴ	ハダニ類	栽培地域全域	-	平年並
	うどんこ病	栽培地域全域	-	少
施設野菜	灰色かび病	栽培地域全域	-	イチゴ：やや少 トマト：やや少
	コナジラミ類	栽培地域全域	-	イチゴ：少 トマト：少

(発生時期の-は連続発生)

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産消費安全技術センター）
http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

【発生予報・根拠・対策等】

I 普通作物

1 麦

赤かび病	対象地域	発生時期<感染最盛期>	発生量
	栽培地域全域	早	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 麦の生育は、岐阜・西濃、中濃地域で早く、東濃地域でやや早くなっている。
- イ 向こう1ヶ月(3/28~4/27)の気象予報によれば、気温は平年並~高く(±~+)、降水量は平年並~多い(±~+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 各ほ場の生育進度は、は種時期により異なるため、生育状況を良く確認し、防除適期である開花盛期(出穂7~10日後)とその7~10日後の2回防除を確実に実施する。
 - イ 開花から10日間は特に感染しやすく、開花期~乳熟期に多雨、曇天が続くと多発しやすいため注意する。
- ※病害虫図鑑「赤かび病について」も参考にしてください。

II 果樹等作物

1 なし

赤星病	対象地域	発生時期<感染最盛期>	発生量
	栽培地域全域	早<4月第2半旬>	やや多

- (1) 予報の根拠
- ア 発芽期は、岐阜・西濃地域で早かった（＋）。
 - イ 前年の発生量は、岐阜・西濃地域で平年並（±）、中濃地域で少なかった（－）。
 - ウ 向こう1ヶ月（3/28～4/27）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～＋）、降水量は平年並～多い（±～＋）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 展葉期から開花終期頃までの降雨により胞子が多く飛散するため、この間は降雨前に予防防除を実施する。
 - イ 早くから気温が高く、上記期間の降雨が多い年に発生が多くなるため注意する。
※病害虫図鑑「なし赤星病について」も参考にしてください。

黒星病	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	栽培地域全域	早<4月第2半旬>	平年並

- (1) 予報の根拠
- ア 発芽期は、岐阜・西濃地域で早かった（＋）。
 - イ 前年の秋期発生量は、岐阜・西濃、中濃地域で少なかった（－）。
 - ウ 向こう1ヶ月（3/28～4/27）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～＋）、降水量は平年並～多い（±～＋）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 開花直前から開花後約2週間（受粉終了直後）までに降雨が多いと発病が増加するため注意する。
 - イ 栽培暦に従い、適期防除を実施する。
※病害虫図鑑「なし黒星病について」も参考にしてください。

Ⅲ 野菜

1 イチゴ

ハダニ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

- (1) 予報の根拠
- ア ほ場での寄生株率は、岐阜・西濃地域で低く（－）、中濃地域で平年並（±）、東濃地域で高かった（＋）。
 - イ 向こう1ヶ月（3/28～4/27）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～＋）、降水量は平年並～多い（±～－）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、同一系統薬剤の連用は避け、葉裏によくかかるように散布する。
 - イ 天敵を導入している施設では、影響の少ない剤を選択する。
※病害虫図鑑「イチゴ ハダニ類について」も参考にしてください。

うどんこ病	対象地域	発生量
	栽培地域全域	少

- (1) 予報の根拠
- ア ほ場での発病は、岐阜・西濃、中濃地域で少なく（－）、東濃地域が多かった（＋）。
 - イ 向こう1ヶ月（3/28～4/27）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～＋）、降水量は平年並～多い（±～＋）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、葉裏までよくかかるように散布する。
※病害虫図鑑「イチゴ うどんこ病について」も参考にしてください。

2 施設野菜

	対象地域	発生量
灰色かび病	栽培地域全域	イチゴ：やや少 トマト：やや少

(1) 予報の根拠

- ア イチゴにおける発病果率は岐阜・西濃、中濃地域で低く（－）東濃地域で高かった（＋）。トマトにおける発病株率、発病果率は低かった（－）。
- イ 今後気温の上昇に伴い、暖房機の運転時間が少なくなることで、施設内の空気が動きも悪くなり、早朝時等の濡れ時間が増加する（＋）と予想される。
- エ 向こう1ヶ月（3/28～4/27）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～＋）、降水量は平年並～多い（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤耐性がつきやすいので同一系統の薬剤の連用は避ける。
- イ トマトでは葉先枯れや花がら、イチゴでは収穫後の果梗などの枯死部位が発生源となるため、早めに取り除き処分する。
※病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」も参考にしてください。

	対象地域	発生量
コナジラミ類	栽培地域全域	イチゴ：少 トマト：少

(1) 予報の根拠

- ア ほ場での発生量は、施設トマト内における黄色粘着板での誘殺数は少なく（－）、イチゴにおける寄生株率は、岐阜・西濃、中濃地域で低く（－）、東濃地域で高かった（＋）。
- イ 向こう1ヶ月（3/28～4/27）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～＋）、降水量は平年並～多い（±～－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、葉裏によくかかるように散布する。
- イ 天敵を導入している施設では、影響の少ない剤を選択する。
※病害虫図鑑「トマト コナジラミ類について」も参考にしてください。

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_12100.html

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_63587.html

[参考資料1]

【令和2年度 病害虫発生予報 公表予定日】

- 第2号（5月予報）：4月28日（火）
- 第3号（6月予報）：5月27日（水）
- 第4号（7月予報）：6月26日（金）
- 第5号（8月予報）：7月29日（水）
- 第6号（9月予報）：8月28日（金）
- 第7号（10月予報）：9月28日（金）

[参考資料 2]

【3月の調査における病害虫発生量】

作物名	病害虫名	調査地点での発生量：3月		
		岐阜・西濃地域	中濃地域	東濃地域
イチゴ	ハダニ類	少	平年並	多
	うどんこ病	少	少	多
施設野菜	灰色かび病	イチゴ：少	イチゴ：少	イチゴ：多
		トマト：少	-	-
	コナジラミ類	イチゴ：少	イチゴ：少	イチゴ：多
		トマト：少	-	-

[参考資料 3]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）－名古屋地方気象台 令和2年3月26日発表－

《予想される向こう1カ月の天候（3月28日から4月27日）》

- ・ 天気は数日の周期で変わってでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
- ・ 向こう1カ月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または高い確率ともに40%です。
- ・ 週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。

[向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各等級の確率（%）]

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

[気温経過の各階級の確率（%）]

	低い	平年並	高い
(1週目) 3/28～4/3	10	20	70
(2週目) 4/4～4/10	30	40	30
(3～4週目) 4/11～24	30	30	40

[参考資料 4]

【用語の基準と使用法】

- 1 半旬 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。
- 2 時期 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
やや早 平年値より3～5日早い。
やや遅 平年値より3～5日遅い。
早 平年値より6日以上早い。
遅 平年値より6日以上遅い。
- 3 発生量 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
やや多 平年値より、その値が21～40%多い。
やや少 平年値より、その値が21～40%少ない。
多 平年値より、その値が41%以上多い。
少 平年値より、その値が41%以上少ない。
- 4 平年値 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。